

まちネットワークよりい
まちネット寄居
私たちから発信しよう 私たちのまちづくり

さあ

手をつなごう!

まちネット 寄居通信『さあ 手をつなごう!』はみなさんの支援力がエネルギー源

まちネット寄居11周年へ

手をつなごう



1月26日、2013年度の総会が終了。まちネット寄居は設立11年目となり、また新たな第1歩を踏み出しました。

まずはできることの実践から

今年度の活動計画では、昨年6月町議会で議員提案により全議員一致で採択された「寄居町の自然エネルギー推進の町宣言」を具体的な形で進めていきます。私たちの身近なところで、再生可能エネルギーの小さな取組の実践を増やしてゆき、目に見える形にしていくことを呼び掛けます。会員の皆さんの提案、ご意見をお寄せください。

さらに、私たちの代表としてある議会を、「もっとわかりやすい」「開かれた」「町民のための議会」にするための働きかけをしていきます。議会は私たちの代表機関ですが、決して白紙委任しているわけではありません。私たちの思いをもっともって議会へ伝えてゆきましょう。その第1歩、年に一度は議会傍聴へ足を運んでみませんか。



まちネット寄居では以前から要望書などで訴えてきた、常任委員会の傍聴、議会のインターネット中継、議会報告会、議会基本条例の制定など今後の課題として継続しながら取り組んでいきます。

生ごみは資源

また、今年もやります「ダンボールコンポスト」講習会。昨年度の寄居町可燃ごみ処理量は9945トン 処理費用はなんと2億4778万7千円 うち処理施設全体での生ごみの割合は16.3パーセント。可燃ごみ処理費用全体からの生ごみ比率を単純計算しても3964万5920円。この大金食い生ごみを少しでもたい肥化できれば、税金

の大きな節約となります。3月議会で町長から「生ごみのバイオマス化への取組調査を始める」といった所信表明が聞かれましたが、これも実現できれば素晴らしいこと。同時に自分の足元で堆肥化し活用する選択肢もあります。町のコンポスト基材への助成金制度の制定の検討も働きかけてゆきたいと思います。

右を見ても左を見ても 高齢者ばかり

また、今年はネット会員の親睦会、交流会を計画しています。10年間支え続けてくださった会員相互の交流がなかなか実現できませんでした。お任せしない、私発のネット会員の横のつながりを作っていきます。2030年には、私たちの寄居町の高齢化率はおよそ43%といわれています。日本の社会が初めて遭遇する高齢社会です。どこにもモデルはありません。私たちは安心して暮らせる地域社会づくりに今から取り組んで行かねばならないと思います。財政難の自治

運営委員はこんな人たち

体任せにはできません。人と人のつながり、たすけあいなくしては乗り越えられない社会がすぐ目の前に迫っています。これからもっと地道な活動の積み重ねが大切になっていきます。

まずは自分たちの足元から、問題、課題を共有できる仲間と話し合いながら、優先順位を決めて取り組みましょう。まちネット寄居を未来に向けてどんどん進化させていきましょう。

まちネット寄居代表 大北秀子

会計のめいコンビの片割れ、清水清子と申します。パソコン入力を担当しています。お見知りおきくださいませ

清水清子

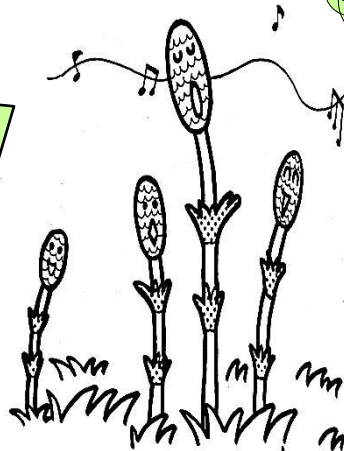
「戦争体験を一人でも多くの方々と一緒に聞いておきたい。」、そう思って飛び込んだネットでした。今年は昨年度に引き続き「広島原爆・被爆体験（終戦後～）」を企画しています。おおぜいのご参加、お待ちしております！

矢島京子

今まで忙しいを理由に活動に参加していなかった私ですが、今年は時間は自分で作るをモットーに活動に参加しようと思っている、
佐藤光です

この地で暮らして20年。気がつけば、5人家族だったわが身も夫婦二人とワン。高齢世帯の域にかかろうとしている。「私発」のまちづくりは、小さな、ささやかな問題意識から。生活者の感性を大事にしなが、お任せしないで主体的に声を上げ続けることを大切にしていきたい、と思ってネットの活動を続けてきました。これからもたくさんの楽しい出会いと仲間作りを続けていきたいな

大北秀子



働いて、働いて、一日が終わる。そんな農家の暮らしをしています。“ランナーズハイ”と同じ、地道な繰り返しの作業はやっていると楽しくなるのです。震災で、それを奪われた人たちの寂しさを思います。今年の活動は、楽しくやろうが合言葉、楽しいことは続きます。

鈴木恵子

東京下町 1960 年生まれ、県内には 88 年より桶川、鴻巣を経て 90 年寄居町に定住。インターに近い、駅に近い（たとえ1時間に1本でも）、星が見える・・・っと思ひ、縁あって用土。実母と夫の3人暮らし。夫に付き合い、海釣りが趣味になりつつあったが、親とペットの介護で中断中。趣味らしきものは見当たらない。恥ずかしながら、2000年に始まった介護保険を切っ掛けに、「福祉は、政治だ」とやっと気づいた。走りながら考えるという見切り発車の施行に愕然とした。国民を大切にする制度づくりは、政治家だけではできない。ニーズが出发点。答えはニーズにある。だから、私たちは、発信しなくちゃならない。そんなことを考えているときに、まちネットに出会った。ただ生活者としての自分の感性を頼りに係わってきた。ほかに、寄居町社協の介護者サロンや、深谷市内のコミュニティカフェなどに携わっている。

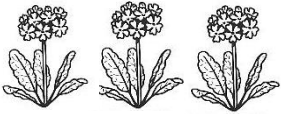
篠原由実子

今年度もまた、会計監査をさせていただきます。年に一度きりですが、普段の活動に全く関わっていない私ができる唯一の機会であり、気持ちが引き締まるような気持ちになります。

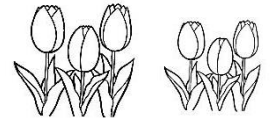
遠藤明子

今市に住んで6年になります。そのまえは、15年ほど鷹巣に住んでいました。東京から寄居町に農業研修のため一家で移住したとき、3歳だった息子（半農半パン屋）は結婚し、赤ん坊だった娘はこの春社会人になります。野菜販売が主な専業農家です。10年前の大北さんの町議選の時からまちネットの（名ばかり）会員でしたが、3・11以降できた「寄居町耕す人の会」の事務局の関係で、例会にも参加するようになりました。もっと若い人たちが、「政治」に興味をもってくれるような仕組みが必要だなあと考えています。よろしく。

伊藤泰子



議 会 傍 聴



2013. 3月議会

議会情報の迅速な公開を

3・11以前は、「議会だより」さえ読むことが少なかった私ですがこの3月議会で気になっていたのは、去年の6月議会で全会一致で決議された「自然エネルギー推進の町宣言」のこと。ここまで半年以上、町行政にたなざらし状態で、もしこの3月議会で予算が付かなければ、私たちの出した要望書も無駄になってしまいます。議員だって面目ないと思うのです。

誰かが一般質問で尋ねるかなあと、昨年議会開催前に一般質問項目がインターネット公開されるようになったと聞いたので、探してみました。でも、議会開催が近づいても見当たりません。議会事務局に電話で尋ねたら、3月議会は町長の所信表明が初日であって、そのあとで一般質問項目を締め切るのだから、ネット公開が遅くなるのだという話。

議会初日の2月27日の町長所信表明の数日後に、ネット公開された一般質問項目をみると、一人の議員が、「昨年6月議会で決議された「自然エネルギー推進のまち」宣言の求めを受け、「より・Eエコタウン推進のまち」を宣言いたします」と所信表明にあります」が、なぜ、「住宅用太陽光発電システム設置費補助制度を今年度は廃止するのか」という質問をするだけなのでしょう。

とても素晴らしい前文が付いた、議会の「自然エネルギー推進の町宣言」決議でしたが、議員にはその実現を求める意志が希薄のようですし、町行政はメガソーラー設置が「エコタウン推進」だと言っているようです。私たちのイメージした、「原発のない未来に向けて地域からエネルギーの自給をめざ

す」ための取り組みは、待っていても誰もやってくれないようです。議会の中で、どのような議論がなされたのかは、「議会だより」と6月議会の直前に作成公開（図書館と議会事務局で。持ち出し不可）される議事録をみるまで、わかりません。平日日中に行われる議会を傍聴できる人は限られますから、ぜひネット中継と録画公開を実現して欲しいと思います。全国的にみれば、町村議会でネット中継しているのは1割くらいらしいですが、お隣の深谷市議会では、HPから中継が見れるし、3年前からの録画を用語や議員名で検索して見ることができ、議事録も公開されています。

議会に関心を持とう

寄居町議会の一般質問項目は、以前は議会に行かなくては入手できなかったのが、ネットに公開されるようになりました。それを事前に読むと、実際の議論にも興味があわくし、関心のある項目については聞いてみたいと思います。また、いつからなのかわかりませんが、寄居町議会でも、ロビーで庁内放送として、議会中継をしているようです。ネット中継・録画まで、もう一押しなんではいしょうか。

私たちの関心こそが、議会の公開度をアップさせるのだらうと思います。

伊藤泰子



町長の所信表明

3月議会の初日2/27、25年度に向けた、町長の所信表明を聞いた。1時間以上にわたる長さだったので、特に印象に残ったものを取り上げたい。

まず、気になっていたこと・・・、私たちの要望から昨年6月議会で決議された「自然エネルギー推進のまち宣言」については、近く予定されているメガソーラーの発電開始を機に、「より・Eエコタウン推進のまち」として宣言すると明言があった。（県のHPによれば、三ヶ山メガソーラーの事業者から町に約400万円が20年間寄付される予定だが、ぜひ、寄居町地産地消の発電所実現のために使って欲しいな。） また、生ゴミのバイオマス資源利用に関する調査研究も行うこととし、「寄居町課」を設置の上、エコなまちづくりの体制強化を図っていくという。

町が少しずつ変わる

開かれた町政、効率・効果的な行政をめざし、町HPのリニューアルと充実（ここ1年で、向上してきた）や町民課でのパスポート発給（10月～）のほか、町長との懇談会でも要望があった子育て支援課の1階への移動など、町民の利便性にも配慮。住民増の観点からも、保育環境・子育て支援強化の姿勢が伺えた。「ホンダ工場および彩の国資源循環工場が立地する町」として積極的に企業誘致するとの表明があったが、住民が安心してウェルカムと言えるためには、環境チェックと公表の工夫が不可欠である。企業誘致が質実ともに住民の幸せに繋がるよう、事業者任せではない町の継続的な努力を願いたい。町長は、農産物加工施設

彩の国資源循環工場周辺 松葉ダイオキシン調査結果報告会



や観光振興などにおいても、NP
Oや住民との「協働」に積極性を
示しているが、下請けではない「協
働」の意味合い、その主体性を尊
重し互いに活かすことが協働関係
の原則であり、活力あふれる町の
発展には欠かせない時代である。
協働展開を力に、エネルギーも食
も地産地消に力を入れた政策を期
待できるのではないだろうか。そ
のほか、子供の学力向上や学校の
空調整備、町民の健康づくりや地
域支え合い、DV対策、男女共同
参画、商工振興・・・等々。町長は、
この所信表明を、「町民福祉の向上
と町の発展を誘導する事業推進に
向けた予算編成となっている。」と
締めくくった。町長の並々ならぬ
思いは、傍聴者にも伝わってきた。
しかし、町の発展は、町民の日々
の暮らしがジャッジするもの。そ
れを議会がどう酌み取り、フィ
ードバックしていくかが問われて
いるのだと思う。

篠原由実子

※所信表明全文が、町のHP『町
長からのメッセージ』の中にア
ップされています。



う～ん
ますます問題だ

主催：生活クラブ生協熊谷ブロッ
ク 共催：松葉による大気調査実
行委員会（まちネット寄居は参加
団体）測定結果は、前回通信
NO,33にて報告。開催：2013年2
月3日 参加者54名
昨年夏に実施した、松葉によるダ
イオキシン類、重金属類調査の結
果を受け、報告会が分析機関であ
る(株)環境総合研究所の池田こみ
ち氏の解説により行われた。松葉
による測定は、年間を通して松葉
に蓄積した物質を分析するもので、
年数回の県、企業による大気調査
に比べ、年間の実態を反映するこ
とができる。池田氏の解説は、専
門的な内容ながら一般市民にもわ
かりやすい内容だった。松葉によ
るダイオキシン調査は全国的に行
われており、全国調査結果など
との比較から、寄居町内の資源循環
工場の現状が鮮明に映し出された。
また、池田氏のグローバルな視点
からの話から多くのことに気づか
された。

日本のダイオキシン類汚染濃度は
EUなどに比較して高く、その原
因として、廃棄物の高温焼却・ガ
ス化溶融処理の増加があげられる。
廃棄物の脱焼却・脱埋め立てが叫
ばれ続けている中、最終処分場の
延命化やエネルギーの有効利用か
ら、プラスチックの焼却処理、焼
却残さ、飛灰などの溶融処理など
近年逆に増加してきている。また、
EUでは排ガス中の金属類の規制
がある。日本ではカドミウムと鉛
のみ。市場経済優先となった社会
構造からは、大量の廃棄物処理に
よる環境汚染、健康被害は将来的
にも続き、ますます深刻になって
いく。便利な暮らしの裏側に潜む、
私たちの健康を徐々に蝕んでゆく
環境汚染へももっとも多くの市
民が、真剣に取り組んで行くこ
との大切さを痛感する。今回の調
査結果は、大気中濃度に換算すると、
敷地内：1.2pg-TEQ/m³、敷地外：
0.28pg-TEQ/m³で、三ヶ山の敷地
内の大気中に、かなりの高濃度の
ダイオキシン類が排出されている。
これは日本の環境基準 0.6pg-TEQ/
m³の2倍、全国の同様焼却炉周辺
大気の平均と比較すると、約40倍
になる。この測定結果から、関連団
体では埼玉県・寄居町へ数項目の
要望（請願）を提出予定。

寄居町デマンドタクシー利用状況

昨年11月よりテスト運行が開始されたデマンドタクシーの利用状況が公開されています。

2013年1月末までの利用者数は、延べ1759人で1日最大利用者数は40人に達しています。

医療施設、商業施設（スーパーなど）への利用が最も多く、利用者は男衾富田地区の登録者が一番多かったようです。5月1日からは3台でフル稼働の予定で、1時間前予約が可能になるとか。実現したら移動の自由がかなり確保されそう。詳しいデータは、インターネットの下記アドレスへアクセスしてみてください。

<http://www.town.yorii.saitama.jp/modules/xfcyosei/article.php?articleid=18>



もろやま華うどんは忙しい主婦の救世主!?

うどん＝讃岐うどんにあらず

今話題の「もろやま華うどん」をネットの運営委員で作って食べてました。

うどん？ そりゃ、なんたって讃岐「讃岐うどん！」。たしかに、讃岐うどんのブランド力は熊谷うどんなどをねじ伏せる力がある。でも、手間をかけて作るんでしょ。そう、乾麺を食べるようにはいかない、これがメジャーうどんの泣きどころ、弱点。でも、そんなあれこれ思い込みを吹っ飛ばしてくれるうどんが作れるのです。「えっ、なに、そんなおうどん作れるの？」。ハイ、作ってみました「もろやま華うどん」。



集まったのはネットのうどん好き面々。農家の主婦、介護につかれ気味の人、自営業のおばさん。いずれも仕事を持ちながら食事作りももれなくついてくる。という逃げたいような厳しい家庭環境で孤軍奮闘する女性たち。彼女たちにとって「もろやま華うどん」は手間かからず、簡単でおいしい、救世主的なうどんなのです。前口上が長すぎました、では「ねらない」「ふまない」「ねかせない」で作って食べた報告です。と言っても、細かく作る作業工程をお知らせするには紙面がありません。そこで、写真をご覧になって、なる

ほど、簡単そうで、おいしそう、と感じてもらえばよし、とします。

用意するポイントは、大きめのボール、地粉が一番、打ち粉に片栗粉をけっこう使う、麺板と麺棒と包丁の三点セット、麺板がなくてもテーブルにシートで十分。麺棒の長さは50センチあれば、30cmくらいに生地を伸ばす際に目安になる。太さは3センチくらいが使い勝手が良い。

ゆでるポイントは、約4分。沸騰した湯に、切った生地をそっと広げるように入れる。生地が浮きあがるのを待つ、浮いてきたらツツツと箸でつつきながらかき混ぜ、生地がくっつかないように。スイトン作りではない。この間およそ4分、4分ですよ。だから、麺つゆ、薬味などは前準備が肝心。ゆであがると冷水でしっかり締め、ザルにあげる。あとは食べる。

試食の感想「おいしい!!」「昼食はこれね」「地粉がいいね」「この食感、讃岐うどんに負けないよね」と、べたほめ。短時間、簡単、何よりうどんの醍醐味が味わえる、これまでのうどん観が覆る、まさにうどんのイノベーション。お奨めです。また声

かけあつてシャカシャカ作る！。

もっと具体的な作り方「知りたい」方は、ネットで『もろやま華うどん』で検索すると、講習会や最新の作り方など詳しく掲載されています。

夏にはネット会員の親睦を兼ねてもっとたくさんの人たちと一緒に作る計画です。お楽しみに！



information お知らせ

まちネット寄居のホームページのURLが新しくなりました!

<http://www.geocities.jp/y115nety/index.htm> にアクセスしてください

「まちネット寄居」で検索すると旧URLが生きていて、古いものが出てきてしまいます。

そして新ホームページが上位に表示されません。

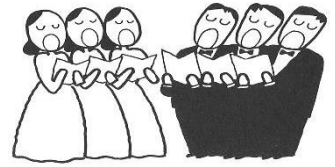
旧:通信NO. 31 までしかみられない。

新:通信NO32 及び「まちネットリポート」が新設されている。
が見分け方です。

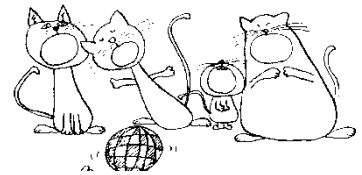
お願い

しばらくの間、新URLをお気に入り登録して、頻繁にアクセスをしてください。そして新しいホームページを上位にあげてください。

ご協力をお願いします



さあ!今年は何でもたのしんで挑戦
足元から新しいこと
始めてみませんか
あなたを待っています
~す



ハンボールコンポスト 講習会

5月25日(土)

午後2時30分~4時

男衾コミュニティセンター

会議室A, B

まちネット寄居定例会

毎月第3水曜日の

夜7時30分~

原則男衾コミセンにて開催、

参加は自由です、

お気軽に顔出ししてください。

ネット会員募集中 いつでもどうぞ!

毎日の暮らしの中で、感じている不安、困っていることから出発。自分たちの足元から見つめ、話していきましょう。

問合せ・・・大北 (582 - 4073)



暮らしのサポートセンター かたかごから

2006年、まちネット寄居の中から、住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために、私たちにできる地域の支えあい、たすけあいの仕組み作りに取り組みようと立ち上げた「かたかご」は今年で8年目となります。会員数は延べ24名、スタッフ会員は11名で出発。年間200件弱の依頼にわずかな人数で対応してきました。地域で暮らす人たちの生活の質の向上に少しでもお役にたきたい、また、だれでもいつ困難な状況になるかわからない、そのための支えあいの仕組みが少しでもあればという先行投資的な思いでもありました。また、私たちは交通弱者の多い地域にあって、行政にデマンド交通の実施を求める声を上げてきました。そしてやっと昨年、寄居町でも待望のデマンドタクシーの試運転が開始され、多くの町民の利用が報告されています。今までかたかごを利用してきた人たちもデマンドタクシーを大いに活用されています。テスト運行以来、かたかご利用件数は激減。私たちにとってはほっとした部分でもあります。わずかに、

デマンドが町内に限定されていることから、近隣の医療施設を利用している方の依頼は続いています。少しずつでも地域が変わっている実感があります。今後、それをさらにきめ細かなものにしていく公共政策が不可欠です。その担い手の育成が必要と感じています。

報告 大北

編集後記

冷え込みの厳しい冬からやっと解放され、暖かさに心浮き立つ季節なのに、昨年の衆議院選挙から、失念の虚脱感が漂っている。日に日に経済の立て直し論がまかり通り、多くの国民が願った、平和、脱原発の声をあえてかき消すマスコミの報道姿勢。そんな中で、私たちは自分たちの足元でできることを継続していくしかない。地域でもっともっと語り合い、弾力を持って様々な課題を自分たちで切り開く、新たな挑戦の時ととらえていくことしかないのだろう。依存の体質はそう簡単には変えられない。女たちは飽くことなく、しつこく粘り強く、なおかつ楽しみながらやっつけていこう。(H.O)